

岩槻駅周辺まちのあり方ビジョン 検討有識者会議

第3回

令和7年10月3日

さいたま市 未来都市推進部

目次

1. 前回会議の振り返り
2. ビジョンの構成と検討イメージ
3. 今後取り組むべき施策の方向性
4. 将来像について
5. 今後の進め方

1. 前回会議の振り返り

分類	主な意見
駅周辺の現状	<ul style="list-style-type: none"> ・地下鉄7号線が開通した場合、通勤・通学流動はどの程度移動時間が短縮されるのか。
施策の方向性① まちの玄関口としての 岩槻駅前空間の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・東口駅前広場の再整備にあたって、駅西口との役割分担についても検討する必要がある。 ・駅の乗り換えという視点から、ワッツをどのように捉えるか。改札の設置場所をどうするか。 ・狭あい道路の拡幅とあるが、魅力的な路地の残し方についても検討をしても良いのではないか。 ・事業者が自走できる仕組み（倉庫や電源の確保など）を公共空間の整備の時に検討しておくとうよい。 ・民間の活力をいかにコンテンツとして入れるかということ意識する設計が必要。自由にいろいろな人が使えるような運用のあり方を考えてはどうか。
施策の方向性② 駅周辺部の土地・空間 の有効活用による 賑わいづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・建物の高さをどれくらい許容するか、規制緩和を行うかは、基盤整備とあわせて考えるべき。 ・起きうる問題に対して国が設けている制度だけで対応できるのか、岩槻独自に条例を作ったほうが良いのか、一步踏み込んで検討するとよい。 ・駅周辺の駐車場について、マネジメントに加えて、デザインについても考慮したほうが良い。 ・空間を生み出すことと、そこをどのように活用するのかは一体的に考えなければいけない。 ・緩和だけではなく、地域のために何をつくるかを明示することが大事。規制と誘導と地域貢献をセットで考える。 ・地権者データベースの作成、地権者の集いの機会の創出等に今から取り組んでおくのはどうか。 ・まちづくりに地権者の方たちをどのように巻き込むかと時間軸を念頭に入れることが大切。
施策の方向性③ 交通ネットワークの充 実による地区内外の 連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・乗り換え機能が充実しているということも当然重要だが、どのようにして時間を費やすかが大事。 ・地区内外の連携の前に岩槻駅の中心性、拠点性の強化があるのではないか。
施策の方向性④ 観光・商業振興の充実 /歩行者の ウォーカブル	<ul style="list-style-type: none"> ・すでに岩槻で活動されている方が主体となって、地元の活動者の収益の機会にもなるような組織作りができると良い。 ・観光スポットまでの道をわくわくする、歩きやすいと感じるような工夫が必要。 ・住民や交流・観光に訪れる人が見た時のわかりやすさが大事。 ・行きたくなる場所を増やすためには、どのような交通手段を確保するのかを考える必要がある。 ・多様性（アクセシビリティ）を受け入れる視点でまちづくりを考えることが大切。 ・ウォーカブルの実現のために、グリーンインフラの役割も検討すると良いのではないか。
施策の方向性⑤ 市民参加とエリア マネジメントの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・エリアマネジメントには従前からの地道な活動が非常に重要になる。誰が主体となり、どのように金銭的な負担をしながらやるのか、今のうちから真剣に考えていかなければいけない。

1. 前回会議の振り返り

【追加データの報告】東武アーバンパークライン岩槻駅の乗降人員の動態データ

- ・岩槻駅の乗車人員／年、降車人員／年はともに約640万人、乗車人員／日、降車人員／日は、ともに約1万7千人。
- ・岩槻駅からの乗車人員の約70%が大宮駅で、約10%が春日部駅より南方面の駅で降車している。
- ・岩槻駅での降車人員の約70%が大宮駅から、約10%が春日部駅から南方面の駅から乗車している。

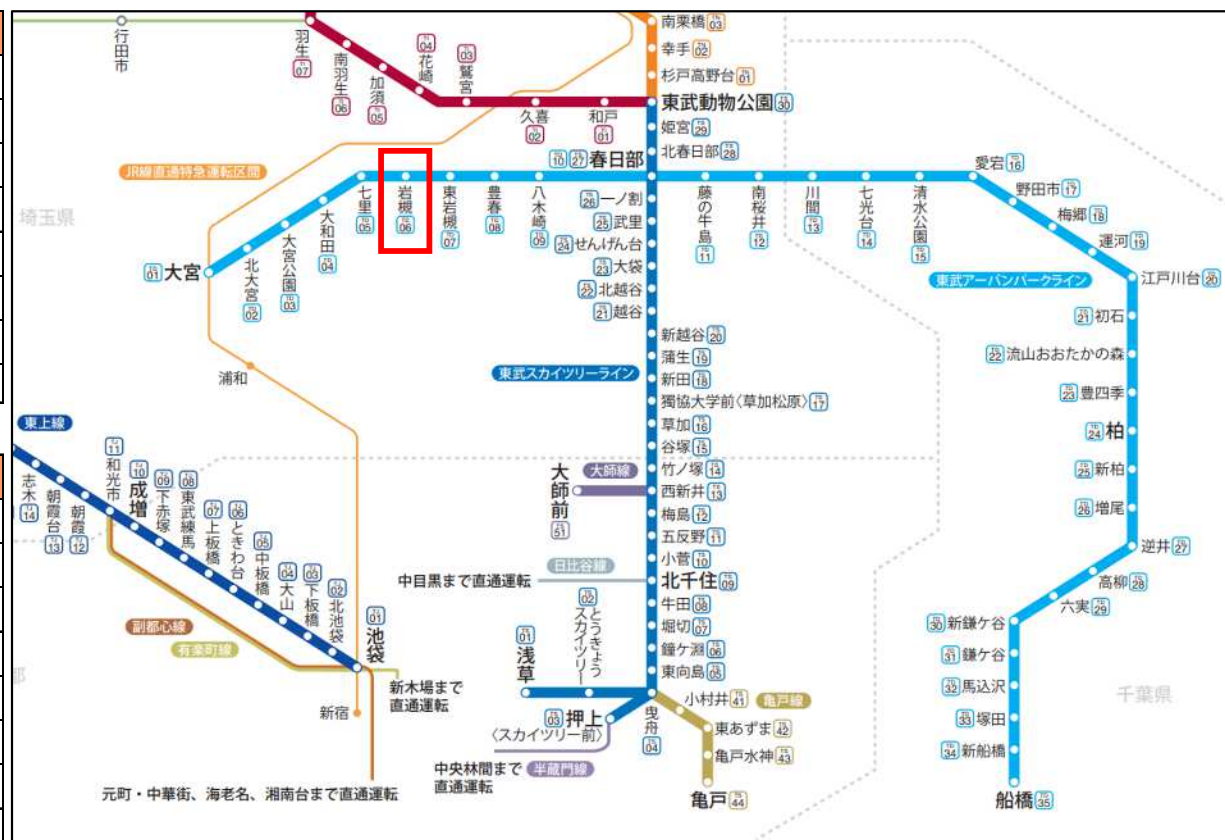
■岩槻駅の乗降人員数（2024年度）

乗車人員	降車人員	1日平均乗車人員	1日平均降車人員
6,410,187	6,398,051	17,562	17,529

出典：東武鉄道株式会社ホームページ

■岩槻駅からの乗車人員の降車駅（2024年度） ■東武アーバンパークライン等路線図

降車駅の方面	降車駅等	割合
大宮駅方面へ	北大宮駅～七里駅	5.6%
	大宮駅(他社線への乗換含む)	66.8%
春日部駅方面へ	東岩槻駅～八木崎駅	4.3%
	春日部駅	4.1%
	春日部駅から先(以北へ)	4.7%
	春日部駅から先(以南へ)	9.8%
	柏駅方面へ	4.7%
合計		100.0%



■岩槻駅での降車人員の乗車駅（2024年度）

乗車駅の方面	乗車駅等	割合
大宮駅方面から	北大宮駅～七里駅	5.7%
	大宮駅(他社線からの乗換含む)	66.5%
春日部駅方面から	東岩槻駅～八木崎駅	4.4%
	春日部駅	4.1%
	春日部駅から先(以北から)	4.7%
	春日部駅から先(以南から)	9.9%
	柏駅方面から	4.7%
合計		100.0%

出典：東武鉄道株式会社から提供

出典：東武鉄道株式会社ホームページの路線図から抜粋

1. 前回会議の振り返り

【追加データの報告】地下鉄7号線延伸による鉄道ネットワークの充実による効果

- ・浦和美園駅から岩槻駅まで延伸されることで、東京圏の鉄道ネットワークが強化される。
- ・整備後は、都心部への速達性が向上するとともに、乗換減少により利便性の向上につながる。
- ・埼玉高速鉄道から乗り入れる都営三田線・東急目黒線・東急新横浜線を経由し、永田町や目黒といった都心、新横浜や海老名への直通アクセスが可能となる。

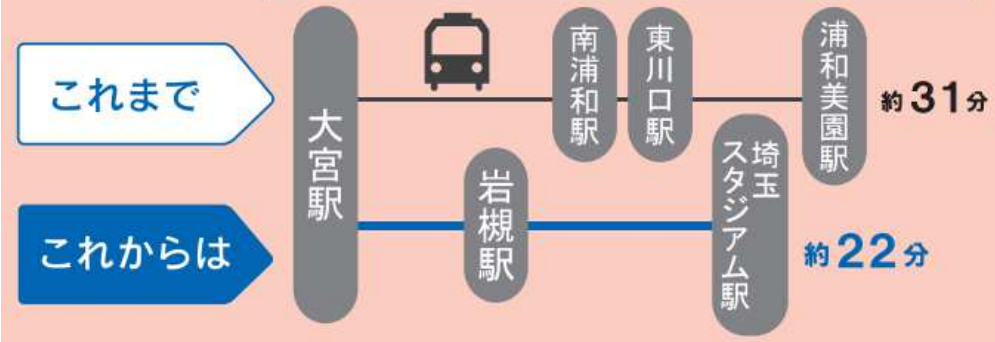
■岩槻駅から都心部への速達性の向上

■トピックス1 岩槻駅から都心へ直結



■乗換の減少による埼玉スタジアムへのアクセス性・利便性の向上

■トピックス2 埼玉スタジアムへのアクセスも便利に



2. ビジョンの構成と検討イメージ

- ・ビジョンの構成（事務局案）と第1回及び第2回有識者会議の議論を踏まえ、3回目以降の検討内容を示す。

ビジョンの構成

検討イメージ

第1章 はじめに

第2章 岩槻駅周辺の現状

第3章 岩槻駅周辺の課題

第3回有識者会議で議論

第4章 今後取り組むべき施策の方向性

- ・岩槻駅周辺の課題を踏まえた施策の方向性に加えて、これまでの施策の評価と課題と地下鉄7号線延伸のインパクトを踏まえ施策を補完
- ・取組の視点とイメージを設定

第5章 まちの将来像

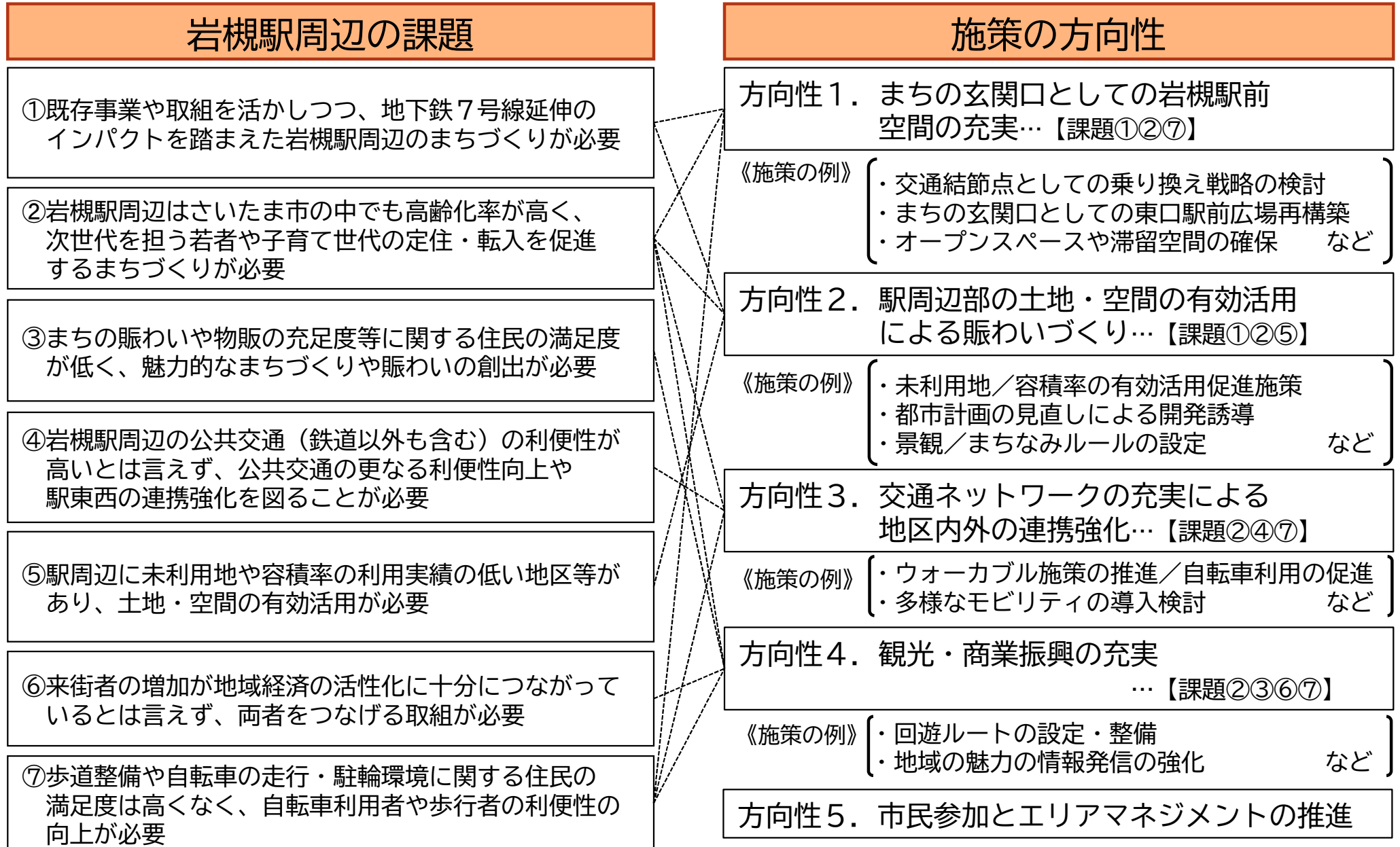
- ・通勤通学で鉄道利用する住民又は市内外からの来街者をターゲットとして想定して、岩槻駅周辺で実現を目指すまちの構造と人の流れのイメージを示す
- ・本ビジョンで示す施策を実施することで実現する空間像を示す

第6章 今後の進め方

- ・ビジョンを踏まえた施策の具体化に向けたロードマップを示す
- ・今後、さらに検討が必要な事項を示す

3. 今後取り組むべき施策の方向性

・まちづくりの視点からまちづくりの課題、施策の方向性を改めて示すと次のとおりとなる。



3. 今後取り組むべき施策の方向性

地下鉄7号線延伸のインパクトとこれまでの取組を活かす視点からの施策の整理

- ・ これからの岩槻のまちづくりでは、延伸のインパクトをまちの活性化につなげられる取組を展開（注力）していくことが重要である。
- ・ 岩槻まちづくりマスタープランなど、これまでの取組を継続・拡充しながらまちづくりを推進する必要がある。
- ・ 人中心のまちづくりの推進のために、シビックプライドの醸成が重要。
- ・ 施策の展開においては、多様性の尊重の視点が必要。

<新たなまちづくりの展開 – 駅周辺の再整備と賑わいのまちづくり>

地下鉄7号線延伸に伴い鉄道結節点となる岩槻駅周辺地区に対するインパクトをまちの活性化につなげられる取組を展開する必要がある。

<これまでのまちづくりの継続と拡大 – 歴史文化を活かしたまちづくりの継続と拡充>

○岩槻まちづくりマスタープラン〔第2期〕で目指す「まちづくりのコンセプトと方針」

【コンセプト】

城下町・人形のまちとしての歴史・文化が息づくふれあいのまち

【方針】

- 1 岩槻の魅力を高める地域資源の保全・活用
- 2 岩槻に潤いとにぎわいを生む産業・交流の推進
- 3 岩槻の未来を創る地域力の発掘・育成

<地域住民との共創 – シビックプライドの醸成>

地域の資源や伝統を大切にしている意識の醸成するとともに、まちの消費者としてだけでなく、生産者やプレーヤーとして主体的にまちに関わる意識の醸成が、まちの賑わい醸成にとって重要となる。

施策の方向性

まちの玄関口としての
岩槻駅前空間の充実

駅周辺部の土地・空間の
有効活用による賑わいづくり

交通ネットワークの充実による
地区内外の連携強化

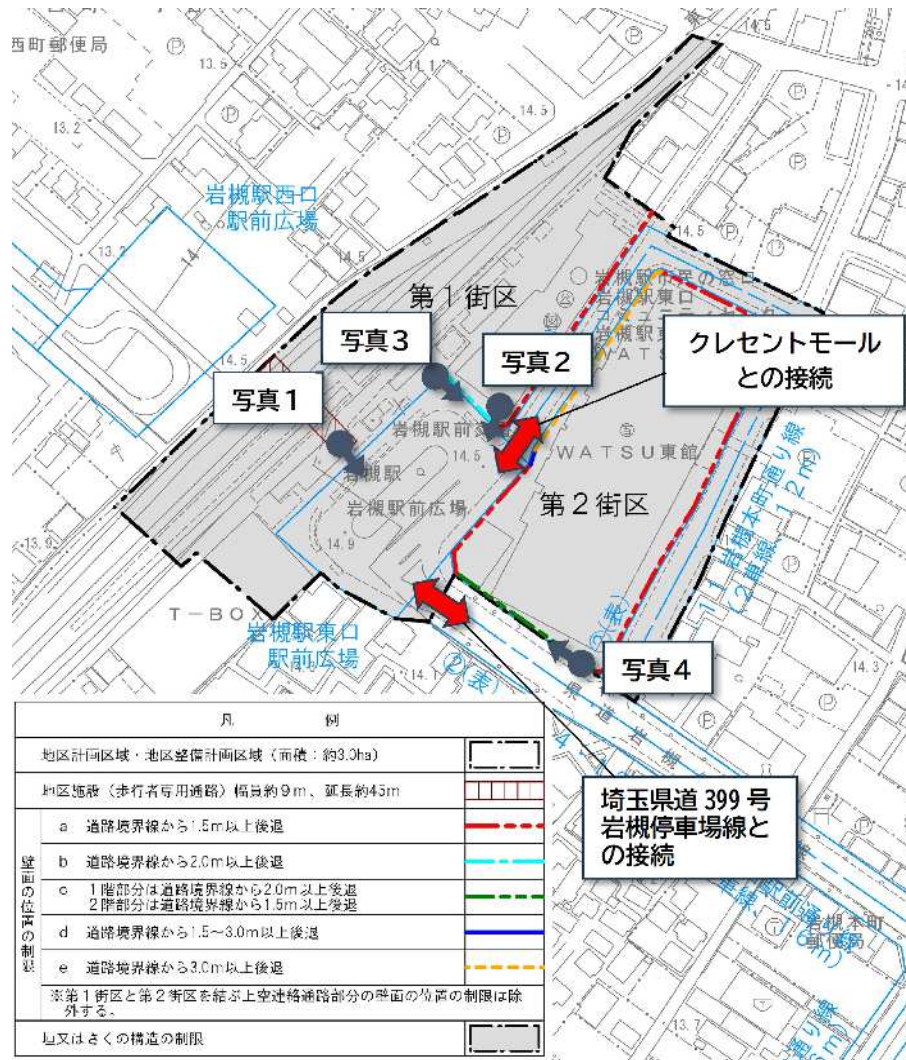
観光・商業振興の充実

市民参加とエリアマネジメント
の推進

3. 今後取り組むべき施策の方向性

【方向性1】 まちの玄関口としての岩槻駅前空間の充実 駅前現状

- ・ 東口は市街地再開発事業を実施済みで、地区計画で建築物の壁面後退等の形態規制、地区施設が定められている。
- ・ 駅前広場に接続するのは岩槻停車場線とクレセントモールである。



名称	幅員等	備考
埼玉県道399号 岩槻停車場線	・ 2車線、幅員16m ・ 整備済	・ 駅前広場との接続箇所は、横断歩道あり、信号なし
クレセント モール (市道)	・ 幅員12m ・ 整備済	・ 道路法上は、車道（市道）の位置付け。 ・ 実態は緊急車両や荷捌きの車を除き、ほぼ 歩行者や自転車の通行やイベント開催スペースとして使用。

3. 今後取り組むべき施策の方向性

【方向性1】 まちの玄関口としての岩槻駅前空間の充実

取組の視点

- ・地下鉄7号線の岩槻駅は地下を予定しており、地上出入口は東口駅前広場内になる見込み。
- ・地下の工事を行うため、地上の駅前広場も再整備となる。これを機に、従来の車中心の空間から、人重視の広場空間へシフトさせ、新たな価値をまちに生み出す駅前空間を形成する。

地下鉄7号線の延伸に伴う
東口駅前広場の再整備

快適・安全な乗換空間

- ・バスやポートを駅近に設置
- ・乗換の動線の空間をバリアフリー

ロータリー中心の広場
から
滞留できる人重視の広場へ

市域の魅力を発信

- ・来街者が周辺地域の魅力（例えば農産物や工芸品）触れられる機会を提供

豊かな時間が過ごせる広場

- ・イベントなどが行える空間
- ・友人や家族で居心地のよい時間を過ごせる空間

まちの玄関口

- ・駅から商店街や観光スポットへのルートが明確（案内・視認性）
- ・グランドレベルの賑わい
- ・駅前の風格のある街並み

駅西口との役割分担

- ・東口駅前広場の再整備において、交通機能等について西口駅前広場との役割の見直しの検討
- ・東口と西口の機能連携や交流により駅の拠点性・中心性を高める

活用を前提とした設計

- ・民間の活力やコンテンツを活かし、広場が活用されることを前提に設計
- ・運用のあり方を一体的に検討

3. 今後取り組むべき施策の方向性

【方向性1】 まちの玄関口としての岩槻駅前空間の充実

取組のイメージ

■歩行者が滞留したくなる空間を創出する

- ・ 学生や子育て世帯にとって居心地の良い緑と座れる場所の提供
- ・ 駅東口ロータリーの面積・運用の見直し、駅西口との役割分担の検討



豊田市駅東口まちなか広場

【運営管理コンセプト】
集まる×交わる×育つ×広がる

新とよパーク（新豊田駅東口駅前広場）



【運営管理コンセプト】
自由と責任の下で目指す持続可能な運営

■賑わう場所を増やしていく

- ・ クレセントモール+駅前広場でマルシェなどのイベントを拡大
 - ▷開催スペースをより駅前広場側に拡大
 - ▷地域の農産物をつかったグルメなどをより積極的に扱い、岩槻のブランドを発信
- ・ ほこみち制度等を活用したオープンカフェの運営
- ・ 民間活力を生かし、活用されることを前提とし、広場再整備の設計と運用のあり方の一体的な検討

▷例：倉庫や電源の設置



出典：WATSUストリートマルシェホームページ



出典：新宿区ホームページ

市と事業者の連携による公共空間の活用の在り方を探っていくことが重要

3. 今後取り組むべき施策の方向性

【方向性1】まちの玄関口としての岩槻駅前空間の充実

取組のイメージ

■鉄道利用者をまちへ誘導する

- ・ 通行空間から屋外のまちが見える空間デザイン
- ・ 地下鉄7号線の駅出口の適切な配置
- ・ 岩槻モールから商店街や観光スポットへの誘導



みなまきみんなのひろば（南万騎が原駅）

出典：全国まちなか広場研ホームページ



みなまきみんなのひろば（南万騎が原駅）

出典：横浜で暮らす

（相鉄グループ運営の公式Xアカウント）

■商店街や観光スポットへ来街者を誘導する

- ・ 駅を出て観光スポット等への道筋が視覚的に直接認知できるような施設配置



姫路駅キャスルビュー

出典：全国ロケーションデータベース



鎌倉駅東口駅前広場

出典：鎌倉市観光協会ホームページ

■まちの顔となる景観をつくる

- ・ 顔としての風格のある街並みづくり（民地のルール、公共空間のデザイン）

3. 今後取り組むべき施策の方向性

【方向性2】 駅周辺部の土地・空間の有効活用による賑わいづくり

取組の視点

- ・ 地下鉄7号線の延伸により、駅周辺の土地の需要が変化する。
- ・ まちを活性化していくためには、需要の変化のうち、プラスの部分、マイナスの部分を見極めたうえで、必要な規制・誘導・基盤整備を適切に組み合わせる。

地下鉄7号線の延伸で
駅周辺の土地の需要が変化

まちの活性化のためには
2つの視点で
取り組むことが大事

需要の変化を 最大限受け入れる視点

- ・ 居住者の増加に必要な基盤施設が整っている
- ・ 若者、子育て世帯が住むのに便利な施設が集まっている
- ・ 来街者が立ち寄りたくなる魅力的な場所がある

需要の変化を マネジメントする視点

- 以下のような未来を未然に防ぐ
- ・ 歩いている人はいなく、車と駐車場だけの駅前
 - ・ マンションが増え、チェーン店ばかりの駅前

3. 今後取り組むべき施策の方向性

【方向性2】 駅周辺部の土地・空間の有効活用による賑わいづくり 取組のイメージ – 需要の変化を最大限受け入れる

■ 基盤施設の改善と土地の高度利用

- ・ 土地の所有状況の把握
- ・ 現在の都市基盤を考慮した許容できる増加人口の検討
- ・ 街並み誘導型地区計画等による街並みの誘導と適切な幅員の道路の確保
- ・ 狭あい道路の拡幅整備
- ・ 用途地域の見直し等による適切な土地利用の規制または緩和

利害関係者（地権者や事業者）の合意形成が重要

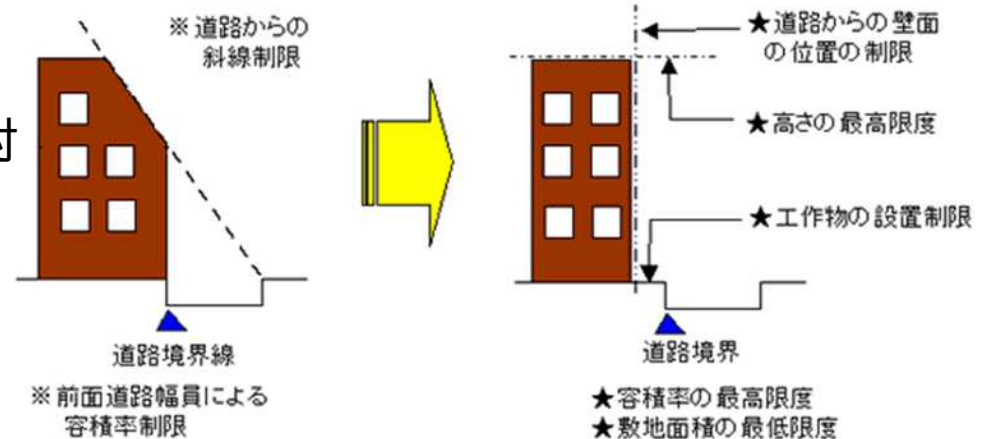
■ 若者世代、子育て世帯に必要な都市機能の確保・強化

- ・ 駅前広場を含む公共空間で滞留空間となる場所を設ける
- ・ 生活利便施設など必要な都市機能の確保
- ・ 多世代交流・こども遊戯施設の誘導
- ・ 都市アセットを一体的に捉え、関係者が連携し、計画・整備・管理運営を行う

■ 駅と観光スポット等をつなぐエリアの魅力向上

- ・ 駅前広場と周辺のまちをつなぐ回遊導線の設定

街並み誘導型地区計画の概要



出典：東京都都市整備局ホームページ



駅まち空間における一体的な都市アセットのイメージ

出典：駅まちデザインの手引き（国土交通省ホームページ）

3. 今後取り組むべき施策の方向性

【方向性2】 駅周辺部の土地・空間の有効活用による賑わいづくり

取組のイメージ - 需要の変化をマネジメント

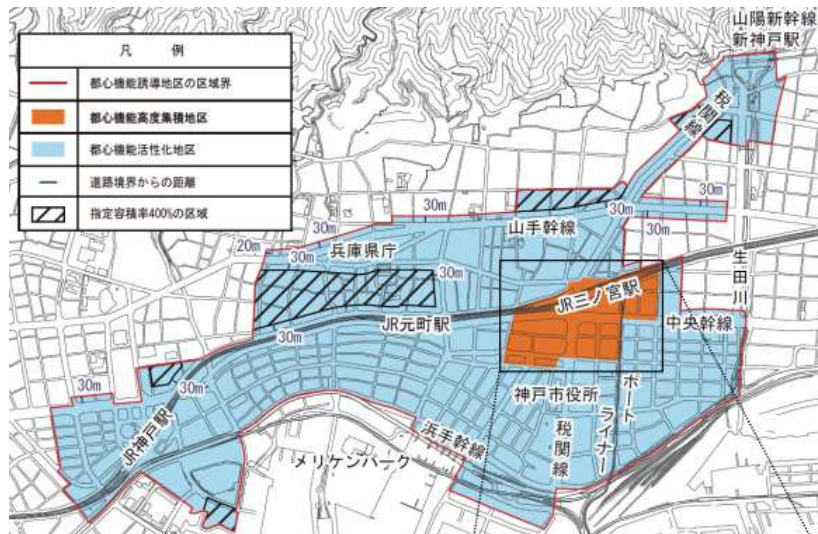
■ 駐車場需要の増加に対する マネジメント

- ・ 地区交通プランの策定
- ・ 駐車場配置適正化区域や路外駐車場配置等基準の設定（規制）とともに、都市景観に貢献する駐車場の確保（誘導）をセットで検討
⇒ 歩行者を優先するエリアの中に対象区間を定め、届出制度で誘導

利害関係者（地権者や事業者）の合意形成が重要

■ 住宅需要の増加に対するマネジメント

- ・ 特別用途地区による住居床面積の規制等の検討



利害関係者（地権者や事業者）の合意形成が重要

駐車場適正化計画の事例（山形市まちなか駐車場適正化計画）
Park & Walk



【駐車場政策の基本方針】

- ・ 新たな駐車場の発生を抑制し、供給量の適正化を図る
⇒ 駐車場整備地区／都市計画駐車場／駐車場附置義務条例の廃止
- ・ 歩行者の安全性に配慮した駐車場の配置の適正化
⇒ 駐車場配置適正化区域／路外駐車場配置等基準の設定
- ・ まちのにぎわいを後押しするため、駐車場の多目的な利用を促進

出典：国土交通省HP 第38回全国駐車場政策担当者会議資料

特別用途地区により住宅を制限している事例

都市機能高度集積地区	住宅等*の建築を禁止
都市機能活性化地区	住宅等の用途に供する容積率の上限を400%とする ただし、敷地面積1000㎡未満はこの制限が適用除外
(例) 指定容積が600%の場合	住宅等 400% その他機能 200%
※全体で600%まで建築可能ですが、住宅等の容積率は400%までしか建築できません。	

出典：特別用途地区（都市機能誘導地区）の概要（神戸市） 15

3. 今後取り組むべき施策の方向性

【方向性3】交通ネットワークの充実による地区内外の連携強化

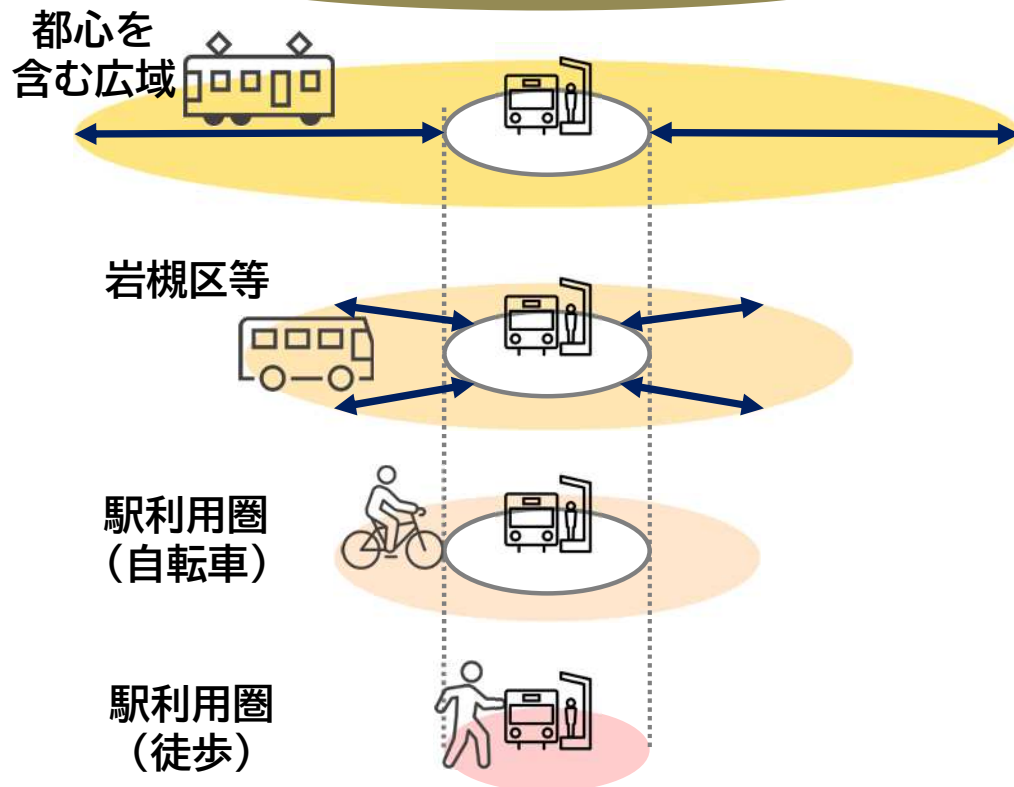
取組の視点

- 地下鉄7号線の延伸に伴う交通ネットワークの充実と鉄道利用者の増加を踏まえ、岩槻駅中心性・拠点性を強化するとともに、鉄道と2次交通の利便性と安全性の向上、地区内外の連携強化を図る。

地下鉄7号線の延伸・岩槻駅の開設による
交通ネットワークの充実

岩槻駅を中心性・拠点性の強化

地区内外の連携強化



鉄道

東京の都心や大宮への通勤通学の手段として利便性の維持・向上

バス・タクシー

駅と住宅地、観光地を結ぶ公共交通の利便性の維持・向上

自転車

安全・快適に自転車が利用できる交通環境の形成

歩行者

ハード・ソフトの取組により住宅地と駅を結ぶ生活道路の安全性の改善

3. 今後取り組むべき施策の方向性

【方向性3】交通ネットワークの充実による地区内外の連携強化

取組のイメージ

■鉄道の実便性向上

- ・地下鉄7号線の延伸

■バス・タクシーなどの実便性向上

- ・コミュニティバス路線の増設などによる生活実便性の向上あわせて、観光客が利用する観光バスとしても活用を検討
- ・交通空白地域の解消に向けた乗合タクシー導入の検討
- ・新たなモビリティサービス導入の検討
(AIオンデマンド交通、グリスローモビリティ等)

■自転車の安全性・実便性の向上

- ・安全に走行できる自転車通行空間の整備
- ・シェアサイクルのポート増設

■歩行者の生活道路における安全性の向上

- ・自動車の速度の抑制（ゾーン30やハンプなど）
- ・歩行空間の確保（カラー舗装や路側帯の拡幅等）
- ・交通規制、バリアフリー整備の必要性検討

観光利用を兼ねたコミュニティバスの事例



【バス現在地】

【停留所到着予定時刻】



出典：金沢市ホームページ

自転車通行を安全にするための対策の事例



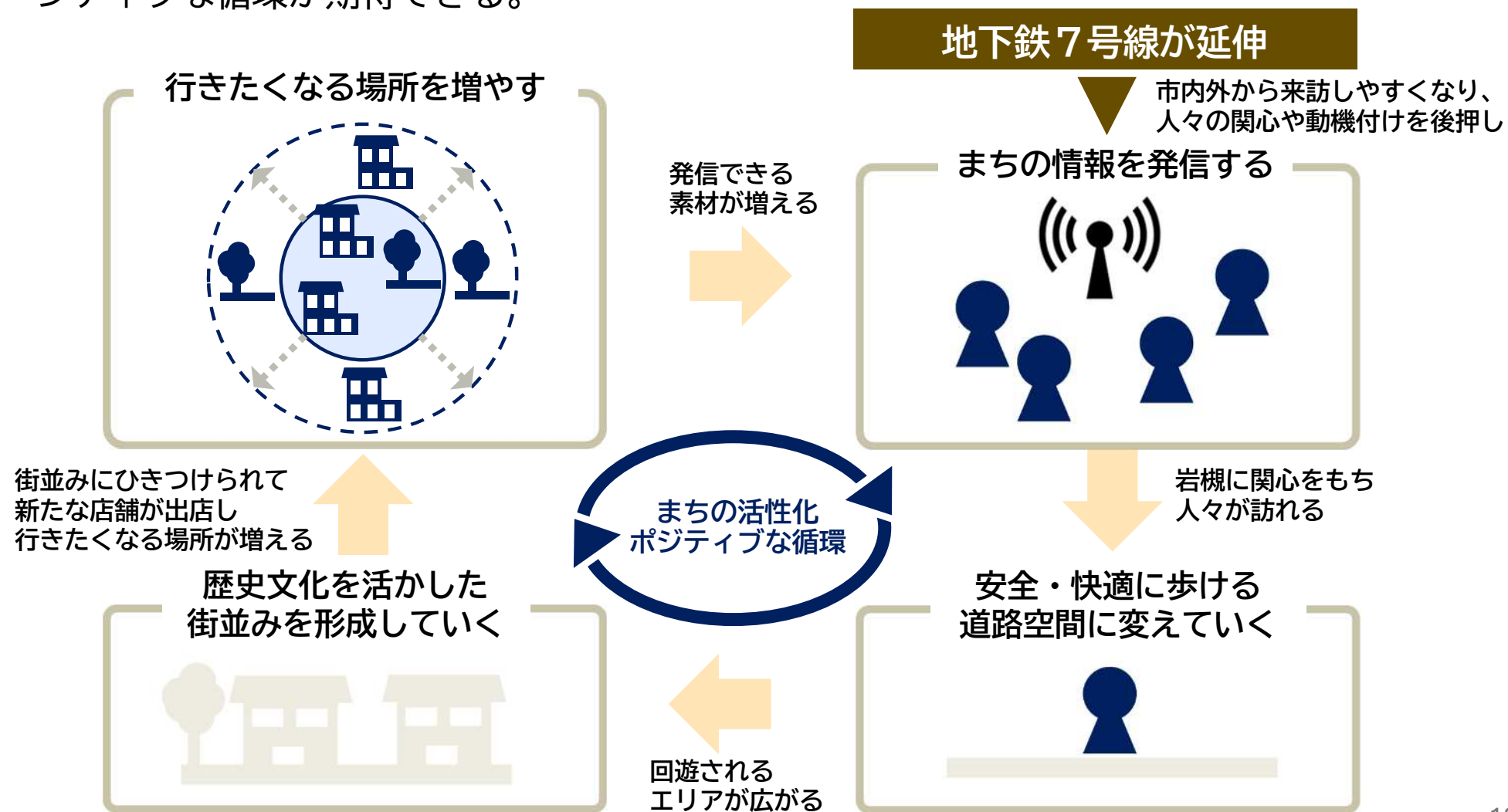
出典：国土交通省ホームページ

3. 今後取り組むべき施策の方向性

【方向性4】観光・商業振興の充実/歩行者のウォークブル

取組の視点

- ・多くの人々が市内外から来たくなる魅力をつくり、発信していく。
- ・さらに道路空間や街並みの質を高めていくことで、行きたくなる場所が増えていくようなポジティブな循環が期待できる。



3. 今後取り組むべき施策の方向性

【方向性4】観光・商業振興の充実/歩行者のウォーカブル

取組のイメージ

■行きたくなる場所を増やす

- ・ 空き店舗のリノベーション
- ・ 公共空間の賑わい活用
- ・ 城下町を体験する機会をつくる
(ARやVRによる現場での再現、武家屋敷や商家の暮らしを再現するイベント 等)
- ・ 岩槻の伝統文化と周辺地域のいまを組み合わせた魅力づくり
- ・ 魅力ある拠点形成のための観光施設の誘導

民間事業者への市の継続的な支援が重要

■まちの情報を発信する

- ・ 地域資源をベースにしたブランディング
- ・ ターゲットの絞り込みと発信
- ・ 若い世代や転入者向けの地域資源や歴史を掘り下げた講座の実施とシビックプライドの醸成



出典：みんなの森ぎふメディアコスモス（岐阜市立中央図書館）

民間事業者に委託するスキームが重要

城下町を体験する機会を創出している事例



出典：三春城と城下町ホームページ（三春町）
特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡ホームページ（福井市）

岩槻の伝統文化と周辺地域のいまを組み合わせた魅力づくりの一例

周辺地域の農産物と生産者



【現在】日本一の人形のまち＝
宿場町という場所性 × 工匠の技術とスピリット × 材料が豊富

岩槻の伝統を活かした組合せ

【新しく】さいたまの魅力を生内外へ発信するまち＝
広域アクセスの駅 × 岩槻の職人スピリット × 周辺地域の農産物

岩槻での取組の例

都市型ファーマーズ マーケット 農家と連携した レストラン 野菜のブランド化 とPRイベント 食と農のコワーキングスペース

3. 今後取り組むべき施策の方向性

【方向性4】観光・商業振興の充実/歩行者のウォークブル取組のイメージ

■安全・快適に歩ける道路空間に変えていく

- ・地域資源を踏まえた回遊ルートの設定・検証
- ・交通規制、バリアフリー整備の必要性検討
- ・緑陰や憩いを提供する植樹等の検討
- ・回遊を誘発するための小さな拠点を結ぶルートの設定



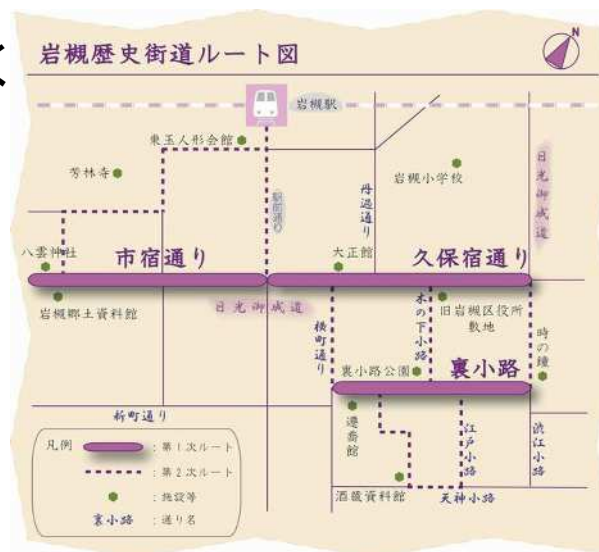
出典：松山市ホームページ



出典：UDCOホームページ

■歴史文化を活かした街並みを形成していく

- ・岩槻歴史街道事業の拡大：
岩槻の歴史文化を代表する通りを対象とした
民地・公共用地の景観形成の取組の拡大
(歴史街道ルート図の第1次、第2次ルート)
- ・回遊ルートを含むエリア全体の建築物・
工作物の形態意匠の誘導
裏小路まちなみづくりの指針(H30.2)では建築物、
工作物・緑化、屋外広告物について指針を設定
- ・魅力的な路地の共有と残すための取組
沿道敷地の住民等と市の連携による建築基準法の適切な活用等



出典：さいたま市ホームページ

3. 今後取り組むべき施策の方向性

【方向性5】市民参加とエリアマネジメントの推進

取組の視点

- ・ 地域に対する誇り、愛着及び共感を持ち、地域のために主体的に関わっていかうとする気持ち（シビックプライド）を醸成することは、地域の方々のまちづくりへの参画意識を高める。
- ・ シビックプライドを醸成し、主体的にまちづくりに参画する地域の方々が増え、そうした方々によりエリアマネジメントを展開し、岩槻駅周辺の賑わい創出につなげることが重要。
- ・ 岩槻では、多様なまちの主体が、数多くの取組を実施している。これらの効果を高めるには、点としての動きを連携させ、相乗効果を生み出していくことが必要である。
- ・ 主体的にまちに関わる方々の誰にでも開かれ、情報の共有と多様なマッチングにより、活発な情報交流や新たな活動を生み出す「プラットフォーム」を構築し、エリアマネジメントにつなげていくことが、岩槻地域の現状を踏まえると有効と考える。

<岩槻駅周辺での取組>



3. 今後取り組むべき施策の方向性

【方向性5】市民参加とエリアマネジメントの推進

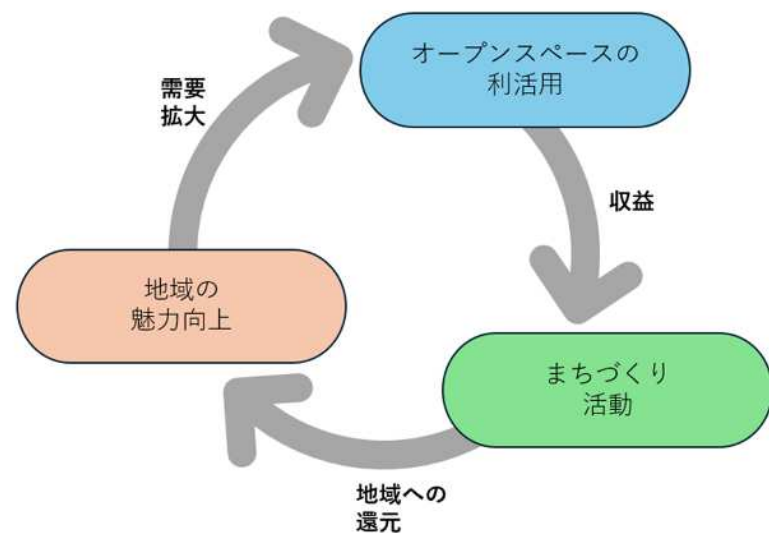
取組のイメージ

■まちづくりプラットフォームによるエリアマネジメント

近年、岩槻駅周辺では、地域まちづくりの担い手の顔と取組が見えるようになっており、継続して担い手の発掘・育成をしつつ、担い手同士をつなぐ仕組みとしてプラットフォームを構築。

プラットフォーム構築により、地域団体、民間事業者・地域企業、行政、教育機関、地域に愛着を持つ市民の方々などのつながりを強化・連携し、オープンスペースの活用や社会実験などの取組を連鎖的に実施することで、賑わいを創出。

シビックプライドに裏打ちされたエリアマネジメントによる持続可能なまちづくりが実現。



出典：岩槻まちづくりアクションプラン（第3期）

持続可能な取組みイメージ

3. 今後取り組むべき施策の方向性

施策実施にあたり留意すべき事項

【施策の方向性1】 まちの玄関口としての岩槻駅前空間の充実

- ・乗換機能の充実だけでなく、まちへの人流のにじみ出しにつながるような地下鉄7号線の改札・駅出口の設置場所やワッツとの連携を検討する。
- ・活用されることを想定した逆算的思考による駅前広場空間の設計。

【施策の方向性2】 駅周辺部の土地・空間の有効活用による賑わいづくり

- ・地下鉄7号線延伸により見込まれる需要の増大を最大限に受け入れつつ、合わせてマネジメントを行う視点に立ち、地域の状況・意向を踏まえ、土地利用等の適切な規制・緩和・誘導方策を検討する。
- ・必要に応じ、法律を補完する独自の条例や地域ルールを策定することで、地域に即した岩槻独自の土地利用等の誘導を検討する。
- ・地下鉄7号線延伸に伴う開発の機運を早期に捉え、まちづくりとの整合を図るために、岩槻のまちが目指すべき方向性を地域で検討する。
- ・岩槻駅の中心性、拠点性の強化に向け、地下鉄7号線延伸のインパクトと地域の特性を踏まえ、新たな都市機能の誘導を検討する。

【施策の方向性3】 交通ネットワークの充実による地区内外の連携強化

- ・岩槻駅の地域公共交通強化により、副都心としての中心性、拠点性を高めるための検討を行う。
- ・地域公共交通の再編による、地区内外のアクセス性の向上の可能性について、ウォーカブル施策との両立を図りながら検討する。

【施策の方向性4】 観光・商業振興の充実/歩行者のウォーカブル

- ・住民や交流、観光で来訪する人にとって分かりやすい回遊のための都市軸づくり。⇒幹となる軸
- ・岩槻の特徴である小径を活かした回遊軸づくりを面的に展開する。⇒枝となる軸
- ・人を媒介として、お店やその他の地域資源などの文化的なコミュニケーションポイントがつながることで生まれる岩槻らしい魅力づくり。⇒人のつながりをベースとした葉となる魅力的なエリア
- ・地域資源の羅列ではなく、まちの歴史・文化的な文脈に根差したストーリー性やシビックプライドを重視する。

【施策の方向性5】 市民参加とエリアマネジメントの推進

- ・参画する主体にとっての収益機会を確保することで、民間主導のエリアマネジメントを持続可能なものとする。

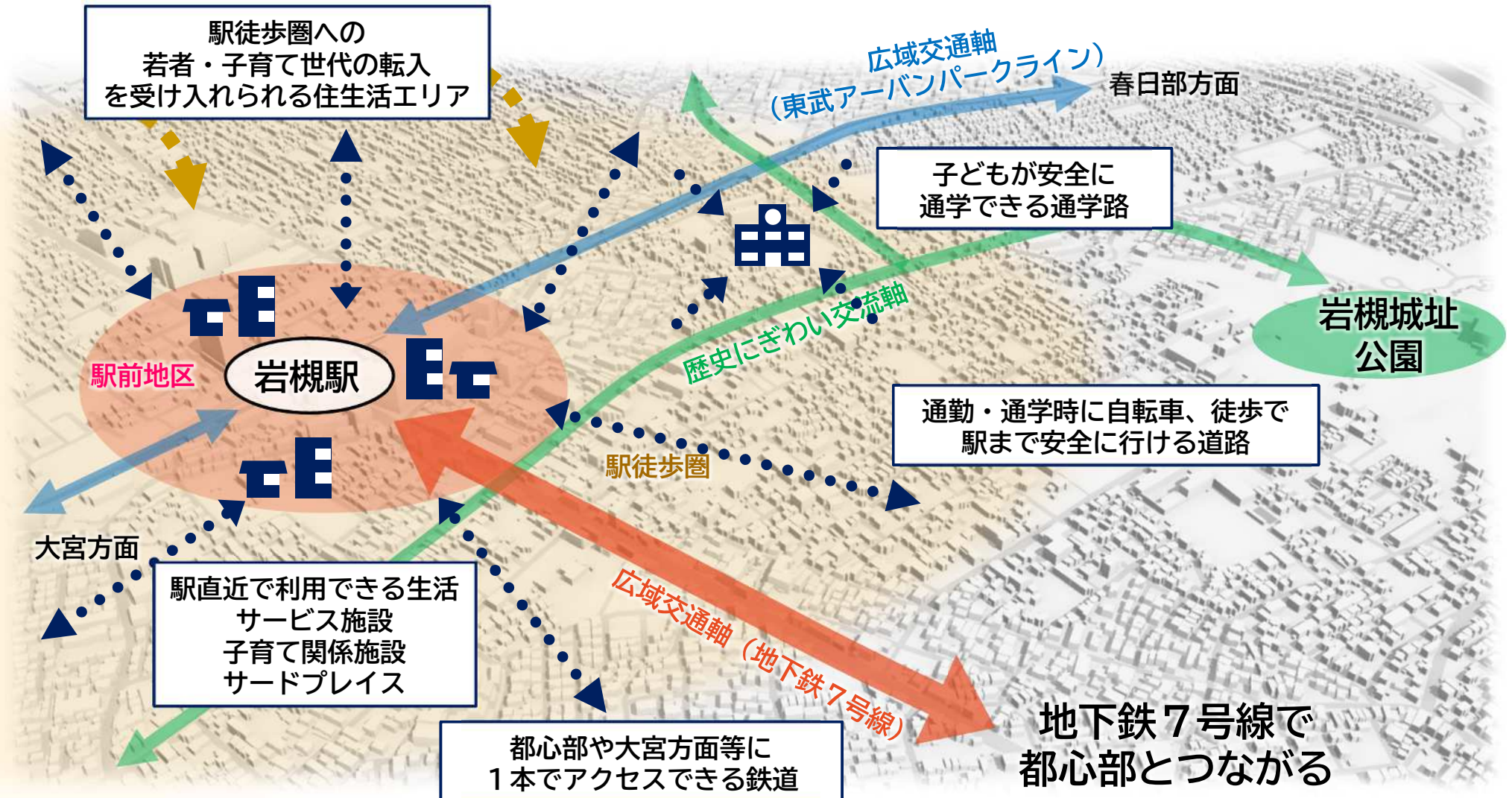
【施策全般について】

- ・魅力的で活気ある都市の条件となる多様な人々の集積による多様性に対応する。
- ・各施策の具体的な検討と実施にあたり、EBPM (Evidence Based Policy Making) の実現に向け、施策の効果の分析・評価を想定したデータの収集・整備に努める。

4. 将来像について

駅周辺のまちの全体像（主なターゲット：通勤通学で鉄道利用する住民・駅利用者）

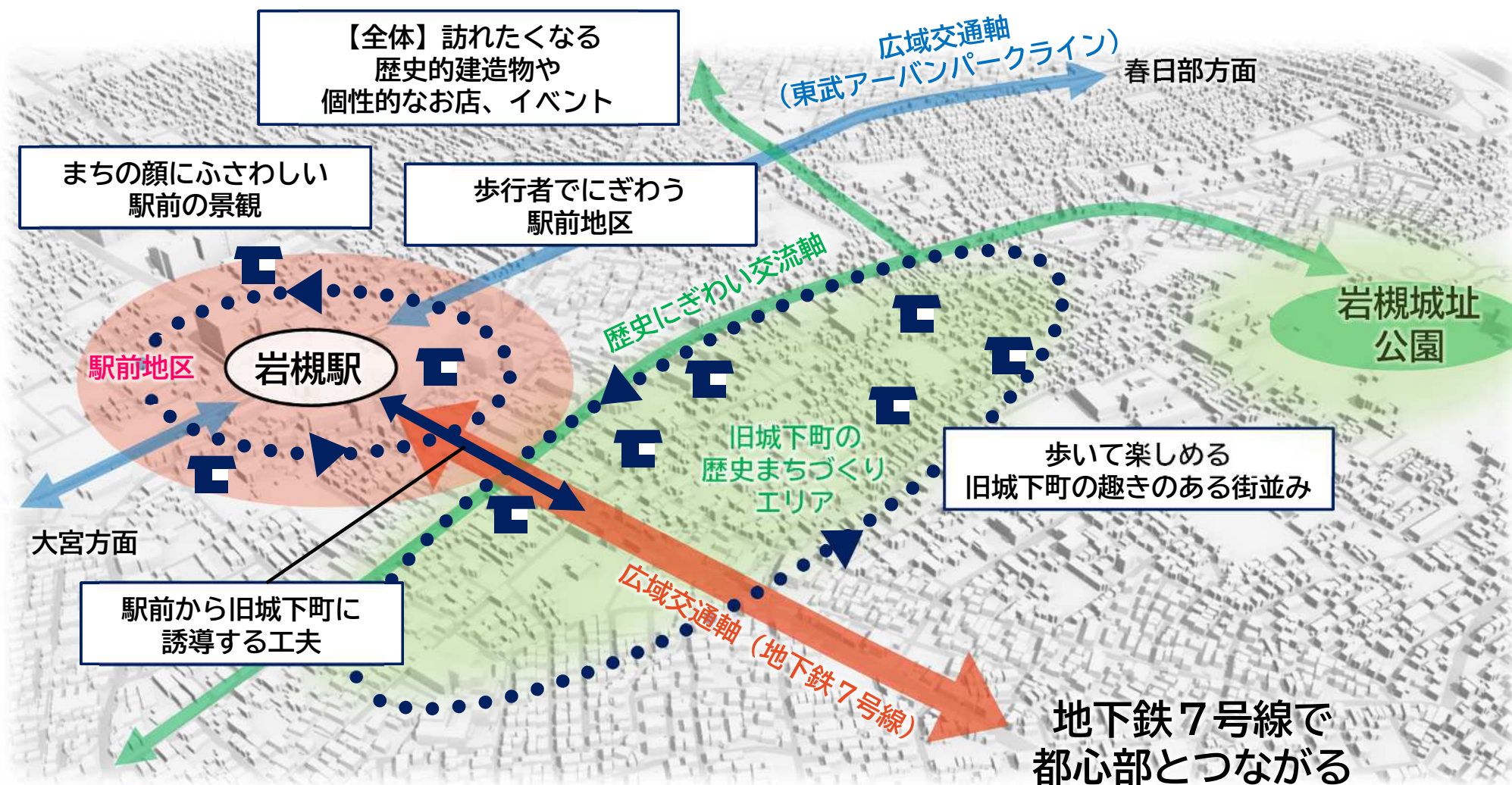
- ・地下鉄7号線の延伸により、住宅需要が高まることを踏まえて、岩槻駅周辺の拠点としての魅力を高め、都心部や大宮等に鉄道で通勤通学する若者世代、子育て世代の転入を想定する。
- ・岩槻駅の徒歩圏に新たな住民に向けた住宅機能が十分にあり、安全、快適、利便、交流等、生活の質を高める機能が整っているまち。
- ・地域資源を理解し、まちの歴史が感じられ、シビックプライドを持てるまち。



4. 将来像について

駅周辺のまちの全体像（主なターゲット：市内外から訪れる来街者）

- ・地下鉄7号線の延伸により、市内外からの来街のきっかけが増えることを踏まえて、岩槻駅周辺の拠点としての魅力を高め、市内、都心部や大宮等から鉄道等による来街を想定する。
- ・岩槻駅の駅前、旧城下町のエリアに魅力的な歴史的建造物やお店等があるまち。
- ・観光スポット等に来街者が駅から迷うことなく、快適に歩いてアクセスし、楽しめるようになるまち。



4. 将来像について

将来像イメージ① 駅前広場の再整備・活用イメージ (クレセントモールから見た駅前広場)



イラストの作成条件

※上記はイメージの1例であり、具体的な事業等は今後検討されます。

ハード	<ul style="list-style-type: none">・広場の再整備・バリアフリー化・滞留空間の整備・緑の配置・観光スポット等への案内・回遊サイン
ターゲット	<ul style="list-style-type: none">・駅利用者(通勤・通学者)・イベント参加者・学生・子育て世帯
アクティビティ	<ul style="list-style-type: none">・クレセントモールと駅前広場一帯でマルシェなどのイベントが開催している (市内の農産物の販売含む)・学生・子育て世帯が座って休憩・おしゃべりしている・オープンカフェで、談笑している・広場で待ち合わせし、城下町エリアへの案内を見ながら、周遊ルートを決める
ストーリー	<ul style="list-style-type: none">・通過する駅前から立ち寄り交流する駅前・日常は、憩いの場、非日常はイベントの舞台

4. 将来像について

将来像イメージ② ストリートのにぎわいづくり (商店街)



イラストの作成条件

※上記はイメージの1例であり、具体的な事業等は今後検討されます。

ハード	<ul style="list-style-type: none">・空き店舗のリノベーション・公共空間や空き家の利活用・低未利用地(駐車場等)の活用・道路空間の活用
ターゲット	<ul style="list-style-type: none">・周辺住民(買い物客・子育て世帯)・観光客(歴史めぐりをしたついで)・空き店舗を活用した創業等を目指す方
アクティビティ	<ul style="list-style-type: none">・買い物をしながら地域のことを学んでいる(地元食材を知る・買う・食べる)・地元住民と来街者が交流している(サードプレイス的な居場所づくり)・空き店舗を活用し、期間限定でお店を開く(チャレンジショップ)・駐車場で社会実験(ベンチの設置、子供の遊び場としての活用等)を実施している
ストーリー	<ul style="list-style-type: none">・暮らしと文化が交じるにぎわいの場へ・商店街が日常と観光の両方を支える拠点に？

4. 将来像について

将来像イメージ③

歴史文化を生かした街並みと歩きやすさ



※上記はイメージの1例であり、具体的な事業等は今後検討されます。

イラストの作成条件

ハード	<ul style="list-style-type: none">・自転車通行空間の整備・歩行空間の確保・案内サインの設置(回遊ルートの設定)・建築物・工作物の形態意匠の誘導(ファサードの統一)・回遊を誘発する小さな拠点
ターゲット	<ul style="list-style-type: none">・観光客・周辺住民
アクティビティ	<ul style="list-style-type: none">・岩槻歴史めぐり(観光客)をしている・散歩(周辺住民)をしている・安全に通勤・通学で利用している・農家と連携したレストランで食事している
ストーリー	<ul style="list-style-type: none">・観光と暮らしの共存

5. 今後の進め方

- ・さいたま市は、本ビジョンに位置付けた施策の方向性を基に、具体的取組を検討し、必要に応じ、浦和美園～岩槻地域成長・発展プラン等に位置付けていく。
- ・地元商業者や地元組織が主体となった取組と、相互補完・相乗効果の視点から連携しつつ、地下鉄7号線の延伸及び駅前広場の再整備、駅前地区、さらのその周辺へと取組の対象を広げていく。

